

「事業名:ドローン人材育成から始まる地域産業の活性化 たむらモデルの高度化・普及事業」
2020年度補助事業の実績・成果

慶應義塾大学 連携市町村:田村市

連携市町村との協定締結日:2016年12月21日 現地拠点:田村市都路町岩井沢185-1(ほか)

事業のポイント

ドローン(=新しいテクノロジー)の社会展開に先立ち、その担い手となる人材を養成することで、人材と産業を地域に定着させる地域活性化手法「たむらモデル」の実証事業。5年間に渡り、福島県立船引高等学校、市内小中学校で特別授業、事業体向けの講習、市民向け講座など人材育成事業を展開。2018年3月には田村市に「ドローンコンソーシアムたむら」を設立し、地域におけるドローン利活用を啓発すると共に、農業・林業現場での実証的な取り組みを進める。2019年4月からは産業振興策として、ドローン担い手が農業従事者に代わって農薬散布や圃場観察を行う「みんなで支える農業」プロジェクトをスタートしている。

今年度の活動実績

ドローン人材育成プログラムとして、福島県立船引高等学校でのドローン特別講座を軸として、基礎から専門性の高い技能を学べる機会を提供した。2020年度の実績としては、技能評価指標として米国NISTが提唱するSTM for sUASを活用し、実践的な操縦技能を客観的に評価し、自己ループで完結する講習体型を考案し、そのやり方で実施した。新型コロナウイルス感染症に伴う休校および対面講座の実施自粛という環境下であっても、客観的な評価指標に基づく遠隔指導を実現した。小学校でのプログラミング教育に先立ち、市内小中学校向けにドローンを用いたプログラミング教育を展開し、2校(1校は中止)に提供した。中学生向けには、より実践的な制御構造について講義を行い、手続きの記述を洗練化できるよう工夫した。

ドローン産業振興プログラムとして、新型コロナウイルス感染症対策で、外出を自粛している多くの人、潜在的なインバウンド客をターゲットとした映像・写真の公開を行った。特に、市内に偏在する「一本桜」に焦点を当てた映像を用意した。

ソーシャルイノベーションプログラムとして、林業から得られた害獣対策を進めた。昨年度導入した長距離映像伝送システムと今年度導入したドローンおよび赤外線カメラを用い、グリーンパーク都路周辺での害獣観察に挑戦した。



今年度の成果

新型コロナウイルス感染症で計画変更を余儀なくされたが、新たに遠隔からの指導におけるノウハウを数多く蓄積し、地元に移譲できた。今年度、たむらモデルの高度化を目指して、ドローン人材育成プログラムを大幅に見直すつもりでいたが、往来が思うようにいかず、ドローン人材育成は大きな打撃を受けると懸念していた。しかし、実際にはSTM for sUASと遠隔指導の相性がよく、ひとりひとりの操縦画面にアクセスしながら指導ができることから、きめ細かな指導ができた。

産業振興および課題解決でも同様に、一定の成果を挙げることができた。ドローンツーリズムでは、以前撮影した桜の映像をきっかけに、地元の人がドローンを使って再度撮影したもので「桜プロジェクト」に取り上げられた。市内のドローン人材は顕著に増えており、このような状況下でも、自らのアイデアに基づいて積極的に活用できた点を強調したい。ドローン人材の活躍により、従来からの従事者にもメリットがある「協働」の可能性を示したことは社会受容の推進にも貢献できたと考える。

新しいテクノロジーの社会展開を機会と捉えた産業振興が広まることで、課題大国日本の新たな勝ち筋を見出す機会を得た。

